

IATSS 2120 プロジェクト・出版記念シンポジウム
「余韻都市 ——ニューローカルと公共交通」

本シンポジウムは、公益財団法人国際交通安全学会で2018年度から2020年度まで実施した自主研究プロジェクト「都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割」の成果をまとめた書籍『余韻都市——ニューローカルと公共交通』（鹿島出版会、2022年3月15日発行予定）の出版を記念して企画したものです。

そもそも都市とはどうあるべきか、その中で公共交通はどうあるべきか、交通工学、交通計画、都市工学の視点だけでなく、社会学、都市デザインの観点も踏まえて3年前に始めた研究会ですが、3年目にコロナ禍に見舞われ、さまざまな制約を受けたものの、むしろ、議論していた課題は先鋭化し、都市のあり方、そこでの移動の意味、それを支える公共交通について、その根本について、より深い議論ができたと考えています。国際交通安全学会にて公開で行っている研究調査報告会でも研究経過や成果を報告してきたところですが、2021年度に出版の企画のための活動機会を得て、3つの座談会をメンバー間で実施し、その内容も盛り込んだ形で出版に至りました。この過程の中で、都市に必要なのは余韻を味わうことができることであり、広場空間、くつろげる場所、それを支える公共交通という考え方、地方都市も含めその場所場所での新しい価値観、新しい暮らし方、これこそがニューノーマルではなくニューローカルであり、都市の移動、公共交通はそこに根差すべきものである、そのような主張に収斂したところです。

今回は、この出版を記念して、書籍の紹介とともに、基調講演として、幅広い視野から社会のあり方に積極的な提言を展開されている生島ヒロシ氏にご登壇いただきます。そして、研究活動全体に大きく関わっていただき、座談会参加、執筆にもご尽力いただいた東京大学出口敦教授のメッセージの後に、主要な執筆者のメンバーで書籍を振り返りながらパネルディスカッションを行う予定です。書籍に込められた思いを理解いただき、これからの都市、そして移動のあり方を考えるきっかけとしていただき、さらには超学際的、国際的な活動で未来のモビリティ社会の実現に尽力している国際交通安全学会の活動にもご賛同いただければ幸いです。

■日時： 2022年3月8日（火） 14:00~16:30

■会場： オンライン開催

■プログラム：

14:00-14:05	開会挨拶	中村文彦	（プロジェクトリーダー・東京大学特任教授）
14:05-14:35	基調講演	生島ヒロシ氏	（フリーアナウンサー）
	「都市の中心に楽しく元気になれる文化・芸術を」		
14:35-14:45	出版によせて	出口 敦	（東京大学教授）
14:45-15:05	書籍紹介	中村文彦	
15:15-16:25	パネルディスカッション「余韻都市での公共交通への期待(仮)」		
	コーディネーター	吉見俊哉	（東京大学教授）
	パネリスト	土井健司	（大阪大学教授）
		藤井 聡	（京都大学教授）
		松村みち子	（タウンクリエイター代表）
16:25-16:30	閉会挨拶	鎌田 聡	（国際交通安全学会専務理事）

■主催： 公益財団法人国際交通安全学会（IATSS）2120 プロジェクト

■参加費： 無料